

施策・基本事業評価表の見方

施策・基本事業評価表は、「施策」及び「基本事業」の成果の現状をとらえ、目標に向けてどんな動向にあるのかを分析した資料です。

将来の都市像「みんなで支えあう 緑と元気あふれる 住みよいまち 尾張旭」を実現するための8つの柱＝「政策」の名称です。

「主管課」
この施策を中心となって進める課等です。
「関係課」
施策の主管課以外で、この施策に関連する事務事業を担当する課等です。

政策番号	8	政策名	分野横断的なまちづくりと市政運営	主管課	企画課
				関係課	総合推進室、秘書課、人事課、情報課、総務課、行政経営課、財産経営課、検査課、税務課、収納課、市民課、会計課、議事課、監査委員事務局

施策番号	施策名称	施策の対象	施策の意図	指標区分	施策の成果指標	指標特性(フルダウ)	総合戦略	単位	基準値	平成27年度	平成28年度	平成29年度	H30目標値	H35目標値	取得方法	対基準値(フルダウ)	対前年度(フルダウ)	目標達成見込(フルダウ)	計画どおりに成果が上がっているか(平成29年度現状値の評価)	目標達成に向けた課題・改善案(目標達成見込が△×の場合に記載)
	「施策」や「基本事業」の名称です。施策は全部で36、基本事業は全部で135あります。	みんなが健康で元気に生活している	健康だと思える市民の割合	成果	健康だと思える市民の割合	上がるの良い指標		%	90.1	88.8	—	88.1	91.0	92.0	アンケート	↑ 低下	↑ 低下	△	アンケートにより取得している数値のため、多少の変動はあるものの目標値は達成している。	市民の健康格差が広がらないよう、
				成果	健康寿命(要介護度2以上にに基づく)	上がるの良い指標		歳	男 82.92 女 85.89 (H22)	男 83.06 女 85.96 (H25)	男 83.29 女 85.74 (H26)	男 83.59 女 85.53 (H27)	男 83.72 女 86.69	男 84.22 女 87.19	業務取得	● 横ばい	● 横ばい	×	本市が採用している健康寿命常生活動が自立している平均介護保険の要介護2から5までを不健康な状態と見做すことにより、目標値の達成は難しいと予想している。	目標達成に向けた課題・改善案を記入しています(目標達成見込が○の場合は任意で記載)
01	「施策」や「基本事業」の対象を示しています。たとえば、施策1-1「健康づくりの推進」は、市民に対して行う施策という意味です。	健康づくり教室	健康づくり教室 元気まる測定への参加者数	成果	健康づくり教室 元気まる測定への参加者数	上がるの良い指標	○	人	3,563	4,004	3,428	2,903	5,000	5,500	業務取得	↑ 低下			対基準値と対前年度は、現状値の成果が向上している場合は●、変動がない(数値が同じ)場合は●、低下している場合は↑、指標となる数値が取得できなかった場合は「不可」を選択しています。目標達成見込は、H30の目標を達成できる見込みがあるか、総合的に判断して○、△、×をつけています。	した「あたまの元気まる」など、積極的に地味で実施していくよう努めているが、目標値の達成は難しいと思われる。
				成果	健康増進に取り組む平均市民数	上がるの良い指標		項目	2.71	3.06	—	3.04	3.00	3.50	アンケート	● 向上				を廃止し、健康増進の推進に努めている。
02	健康相談・保健指導の充実	市民	なごの充実により、健康に関する相談が気軽に受けられる	成果	健康だと思える市民の割合	上がるの良い指標		% (件)	100	100 (8,671)	100 (8,439)	100 (7,991)	100 (9,500)	100 (9,500)	アンケート				各指標の数値の取得方法です。アンケート:2年に1度実施を予定している市民3,000人を対象にしたアンケートにより数値を把握します。業務取得:業務データにより数値を把握します。	専門職への対応が100%を維持しているが、目標相談件数の達成は難しいと思われる。
				成果	健康増進に関する相談件数	上がるの良い指標		人	14,947	14,483	13,003	12,730	16,600	16,800	業務取得					対象者数の減少や健診・予防接種等が集団実施から個別実施に変わってきたことにより、保健事業の参加者数は年々減少しており、目標値の達成は難しいと思われる。

目標達成に向けた課題・改善案を記入しています(目標達成見込が○の場合は任意で記載)

対基準値、対前年度、目標達成見込の結果を踏まえて評価を記入しています。また、現状値が取得できなかった場合は成果向上のために実施した主な事業を記入しています。

対基準値と対前年度は、現状値の成果が向上している場合は●、変動がない(数値が同じ)場合は●、低下している場合は↑、指標となる数値が取得できなかった場合は「不可」を選択しています。目標達成見込は、H30の目標を達成できる見込みがあるか、総合的に判断して○、△、×をつけています。

各指標の数値の取得方法です。アンケート:2年に1度実施を予定している市民3,000人を対象にしたアンケートにより数値を把握します。業務取得:業務データにより数値を把握します。

第五次総合計画(期間:平成26~35年度)の中間年次にあたる平成30年度と最終年次の平成35年度の目標値を掲げています。

各年度の実績です。数値が取得できなかった場合は「—」としています。

目標を立てるうえで、原則的に平成24年度に取得した数値を基準としています。

「尾張旭市総合戦略」に記載された指標には「○」がついています。

指標の数値が「上がるの良い指標」なのか、「下がるの良い指標」なのかを記載しています。どちらでもない場合は「その他」としています。

「施策」や「基本事業」の目指す将来の姿を示しています。たとえば、施策1-1「健康づくりの推進」では、「みんなが元気に生活している」ことを目指すものです。

「施策」や「基本事業」の目指す姿の達成度を示す指標(モノサシ)です。たとえば、「みんなが元気に暮らしている」といった施策の意図をどれだけ達成できたかを見極めるために、「健康だと思える市民」の割合を市民へアンケートにより取得します。